

平成 19 年度
大阪府における石綿の健康リスク調査報告書(案)

平成 20 年 5 月
大阪府

大阪府における石綿の健康リスク調査報告書

目次

1. 目的	2
2. 内容	2
(1) 調査対象者	2
(2) 調査内容	2
(ア) 問診及び登録	2
(イ) 検査の実施	2
(ウ) 医学的所見に基づく翌年度以降の継続調査協力者の選定	3
(エ) 翌年度以降の継続調査	3
(オ) データの集約	3
3. 結果	4
(1) 調査協力者数	4
(2) 調査協力者の医学的所見・ばく露歴の整理	5
4. 考察	21
5. 今後の予定	21
6. 参考資料	22

1. 目的

一般環境を経由した石綿ばく露による健康被害の可能性があった大阪府泉南地域及び河内長野市において、石綿関連工場等の周辺住民及び居住歴のある住民等に対して、問診、胸部X線検査、胸部CT検査等を実施することにより、石綿ばく露の医学的所見である胸膜プラーク等の有無や、健康影響との関係に関する知見を収集し、石綿関連疾患の発症リスクに関する実態把握を行う。

2. 内容

(1) 調査対象者

原則、平成2年以前に大阪府泉南地域（岸和田市、貝塚市、泉佐野市、泉南市、阪南市、熊取町、田尻町、岬町）及び河内長野市に居住歴があり、一般環境を経由した石綿ばく露の可能性のある40歳以上の者を調査対象者とした。

(2) 調査内容

(ア) 問診及び登録

調査対象者を平成18年度の泉南地域の調査協力者（以下、「継続協力者」という。）に加え、新たに泉南地域及び河内長野市の市・町広報紙等により募集。新たな応募者に対し、保健師立ち会いの下、問診を実施し、問診の結果、石綿ばく露の可能性があると認められた者の内、調査協力に対する同意を得られた者を調査協力者として調査登録台帳への登録を行い、今後の検診結果を調査協力者において記録いただくための「石綿ばく露による健康影響管理ノート」を発行した。

(イ) 検査の実施

問診終了後、継続協力者には原則、胸部X線検査のみ実施し、医師が必要と認めるものに対しては胸部CT検査を追加実施した。また、新規協力者に対しては、胸部X線検査及び胸部CT検査を実施した。それぞれの検査については胸部X線検診車及び胸部ヘリカルCT検診車を活用した。

検査実施日	検査内容	受診者数(人)
平成19年11月12日(月)	胸部X線	46
平成19年11月13日(火)	胸部X線	65
平成19年11月19日(月)	胸部X線	64
平成19年12月2日(日)	胸部X線・CT	39
平成19年12月6日(木)	胸部X線	48
平成19年12月8日(土)	胸部X線・CT	21
平成20年2月3日(日)	胸部X線・CT	84
平成20年2月5日(火)	胸部X線・CT	71

なお、過去1年以内に胸部X線検査やCT検査を受診している調査協力者については、その際の検診結果や検診データの提示を求め、原則、胸部X線及びCT検査は実施しなかった。

検査結果については、調査協力者に通知するとともに、受診者台帳及び調査登録台帳に登録した。

(ウ) 医学的所見に基づく翌年度以降の継続調査対象者の選定

財団法人大阪がん予防検診センター及び大阪府立呼吸器・アレルギー医療センターにおいて読影を行った後、医学的所見を確認の上、次のとおり選定することとした。

【医学的所見に基づく選定】

- ① 石綿健康被害救済法の対象疾病となった者は、その時点で調査終了とする。
- ② 石綿ばく露に関する医学的所見が認められる者のうち、医療の必要がないと判断された者は、翌年度以降の継続調査対象とする。
- ③ 石綿ばく露に関する医学的所見が認められる者のうち、医療の必要があると判断された者は、調査終了とするが、治療終了後、調査対象者となることを妨げない。
- ④ 石綿ばく露に関する医学的所見が認められない者のうち、医療の必要がないと判断された者は、翌年度以降の継続調査対象とする。
- ⑤ 石綿ばく露に関する医学的所見が認められない者のうち、他の疾病により医療の必要があると判断された者は、調査終了とするが、治療終了後、調査対象者となることを妨げない。

上記②または④と判断された者については、1年後の受診勧奨を行う。

なお、①、③及び⑤と判断された者についても、同意を得た上で、可能な限り、治療経過等の把握に努めることとした。

(エ) 翌年度以降の継続調査

前記【医学的所見に基づく選定】で②または④と判断された者は、大阪府の受診勧奨により、年1回、胸部X線検査、必要に応じ胸部CT検査等を受診する予定。

なお、検査の内容及び受診の必要性の可否は、前回の検査結果等を総合的に勘案して判断するものとする。

(オ) データの集約

大阪府は、上記(ア)～(エ)の一連の作業について、大阪府アスベスト健康対策専門家会議の意見も聴取して実施し、データ集約を行った。

3. 結果

(1) 調査協力者数

問診・胸部X線検査、胸部CT検査を受診・資料提供した者 438 名
このうち、

- ① 平成 2 年以前に大阪府泉南地域及び河内長野市に居住していた者 438 名
- ② 上記①のうち、現在も泉南地域及び河内長野市に居住している者 424 名

①の受診状況

表2 年齢階層別ならびに検査項目別受診者数(取りまとめ時に報告)

年齢区分	受診内容	合計		男		女	
		(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
30～39歳	問診+胸部X線+胸部CT	1		1			
	問診+胸部X線のみ	1		1			
	問診+胸部CTのみ						
	問診のみ						
	計	2	0.5%	2	0.9%	0	0.0%
40～49歳	問診+胸部X線+胸部CT	31		17		14	
	問診+胸部X線のみ	23		11		12	
	問診+胸部CTのみ						
	問診のみ						
	計	54	12.3%	28	12.3%	26	12.4%
50～59歳	問診+胸部X線+胸部CT	50		25		25	
	問診+胸部X線のみ	44		19		25	
	問診+胸部CTのみ						
	問診のみ						
	計	94	21.5%	44	19.3%	50	23.8%
60～69歳	問診+胸部X線+胸部CT	64		30		34	
	問診+胸部X線のみ	98		50		48	
	問診+胸部CTのみ						
	問診のみ						
	計	162	37.0%	80	35.1%	82	39.0%
70～79歳	問診+胸部X線+胸部CT	41		25		16	
	問診+胸部X線のみ	70		41		29	
	問診+胸部CTのみ						
	問診のみ						
	計	111	25.3%	66	28.9%	45	21.4%
80～89歳	問診+胸部X線+胸部CT	6		3		3	
	問診+胸部X線のみ	8		4		4	
	問診+胸部CTのみ	1		1			
	問診のみ						
	計	15	3.4%	8	3.5%	7	3.3%
90～99歳	問診+胸部X線+胸部CT						
	問診+胸部X線のみ						
	問診+胸部CTのみ						
	問診のみ						
	計	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	問診+胸部X線+胸部CT	193		101		92	
	問診+胸部X線のみ	244		126		118	
	問診+胸部CTのみ	1		1		0	
	問診のみ	0		0		0	
	計	438	100.0%	228	100.0%	210	100.0%

※平成20年2月5日現在

(2) 調査協力者の医学的所見・ばく露歴の整理

調査協力者の医学的所見・ばく露歴について、A～C表に整理し、以下のとおり、取りまとめた。

A表:2007年度受診者

症例番号	性別	生年(西暦)	2006年度所見	2007年度X線所見	2007年度CT	最新の所見	疾患名	A,直接 職業あり	I,間接 職業あり	ウ,家庭 内ばく露あり	エ,立入・ 屋内環境ばく露あり	オ,その他	ばく露歴 分類案	備考(その他所見)	備考(終了理由)
1	男	1930代	⑩	不変	—	⑩	f	●					ア	肺気腫	
2	女	1930代	⑩	不変	—	⑩	なし	●					ア	腎のう胞	
3	女	1930代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア		
4	男	1920代	②,⑩	増悪	—	②,⑩	f	●					ア	肺気腫	
5	女	1940代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア		
6	男	1940代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア		
7	男	1930代	なし	新所見	—	⑩	なし	●					ア	左右上肺野小結節	
8	男	1930代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア		
9	男	1940代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア		
10	男	1930代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア		
11	男	1930代	⑧	新所見	○	⑧	なし	●					ア		
12	男	1950代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア		
13	女	1930代	②	不変	—	②	なし	●					ア	肋骨横隔膜角鈍化	
14	男	1930代	⑩	不変	—	⑩	なし	●					ア	気腫性変化	
15	男	1930代	⑩	比較なし	—	⑩	なし	●					ア	気腫性変化	
16	男	1930代	②,⑥	不変	—	②,⑥	なし	●					ア		
17	男	1930代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア		
18	男	1920代	②,⑨	不変	—	②,⑨	なし	●					ア		
19	男	1930代	②,⑨,⑩	不変	—	②,⑨,⑩	f	●					ア	肺気腫	
20	男	1940代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア		
21	女	1920代	②,⑩	不変	—	②,⑩	なし	●					ア	左下野不整形陰影、気管支	
22	女	1930代	⑨,⑩	不変	—	⑨,⑩	なし	●					ア	気腫性変化	
23	男	1940代	②	不変	—	②	なし	●					ア		
24	女	1940代	②	不変	—	②	なし	●					ア		
25	男	1940代	②	不変	—	②	なし	●					ア		
26	男	1940代	②,⑩	不変	—	②,⑩	なし	●					ア	気腫性変化	
27	女	1940代	②,⑥,⑩	増悪	—	②,⑥,⑩	c	●					ア	気腫性変化	
28	男	1950代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア		
29	男	1930代	②	不変	—	②	なし	●					ア		
30	女	1940代	②,⑨	不変	—	②,⑨	なし	●					ア		
31	男	1930代	②,⑥,⑧,⑨	不変	—	②,⑥,⑧,⑨	なし	●					ア		
32	男	1930代	②,⑥,⑨,⑩	不変	—	②,⑥,⑨,⑩	c	●					ア	気管支拡張	
33	女	1940代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア		
34	男	1930代	②,⑨,⑩	不変	—	②,⑨,⑩	なし	●					ア	ブラ、気腫性変化	
35	男	1940代	⑩	不変	—	⑩	なし	●					ア	胸部大動脈拡張、気管支拡張	
36	男	1930代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア		
37	男	1940代	②,⑤,⑥,⑩	不変	—	②,⑤,⑥,⑩	なし	●					ア	気腫性変化	
38	女	1940代	②	不変	○	②	なし	●					ア		
39	男	1940代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア		
40	男	1950代	⑩	新所見	—	⑩	なし	●					ア	右中野、左下野不整形陰影	
41	女	1930代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア		
42	男	1930代	②,⑩	不変	—	②,⑩	なし	●					ア	胸膜肥厚	
43	男	1930代	②,⑩	不変	—	②,⑩	なし	●					ア	気腫性変化	
44	女	1940代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア		
45	女	1950代	⑩	不変	—	⑩	なし	●					ア	気腫性変化	
46	女	1930代	②	不変	—	②	なし	●					ア		
47	女	1930代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア	心拡大	
48	男	1930代	②,⑧,⑩	増悪	○	②,⑧,⑩	なし	●					ア	気腫性変化	
49	女	1920代	②,⑧,⑩	増悪	○	②,⑧,⑩	なし	●					ア	気管支拡張	
50	女	1940代	なし	新所見	—	⑩	なし	●					ア	右上肺野結節	
51	女	1940代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア		
52	女	1930代	②	不変	—	②	なし	●					ア		
53	女	1930代	⑨	不変	—	⑨	なし	●					ア		
54	男	1940代	②	新所見	—	②,⑩	なし	●					ア	左胸水疑い	

症例 番号	性別	生年(西 暦)	2006年 度所見	2007年 度X線所 見	2007年 度CT	最新の 所見	疾患名	A.直接 触歴あり	I.間接 触歴あり	ウ.家庭 内ばく露 あり	エ.立入・ 屋内環 境ばく露 あり	オ.その他	ばく露歴 分類案	備考(その他所見)	備考(終了理 由)
55	女	1940代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア		
56	男	1950代	②,⑩	不変	—	②,⑩	なし	●					ア	気腫性変化	
57	男	1930代	②	不変	—	②	なし	●					ア		
58	男	1940代	②,⑨	不変	—	②,⑨	なし	●					ア		
59	男	1930代	②	不変	—	②	なし	●					ア		
60	女	1930代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア		
61	男	1950代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア		
62	男	1930代	②	不変	—	②	なし	●					ア		
63	男	1940代	②,⑨, ⑩	不変	—	②,⑨, ⑩	なし	●					ア	気腫性変化	
64	男	1930代	②,⑨, ⑩	不変	—	②,⑨, ⑩	なし	●					ア	肋骨横隔膜角 鈍化	
65	女	1930代	②	不変	—	②	なし	●					ア		
66	女	1940代	②,⑦, ⑩	新所見	—	①,②, ⑦,⑩	なし	●					ア	炎症後変化	
67	男	1930代	②	不変	—	②	なし	●					ア		
68	男	1930代	⑨	不変	—	⑨	なし	●					ア		
69	男	1950代	②,⑩	不変	—	②,⑩	f	●					ア	肺気腫	
70	女	1930代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア		
71	女	1920代	—	②,③	○	②,③	なし	●					ア		
72	女	1940代	—	なし	○	なし	なし	●					ア		
73	男	1940代	—	②,⑥	○	②,⑥	なし	●					ア		
74	女	1930代	—	②	○	②	なし	●					ア		
75	男	1930代	—	なし	○	なし	なし	●					ア		
76	男	1930代	—	⑩	○	⑩	なし	●					ア	肺気腫	
77	男	1930代	—	②	○	②	—	●					ア		
78	男	1960代	—	⑩	○	⑩	—	●					ア	右S4・3mm結節	
79	男	1940代	—	⑩	○	⑩	—	●					ア	肺尖の陳旧性 変化	
80	男	1940代	—	⑩	○	⑩	なし	●					ア	左S1+2結節 8mm	
81	男	1930代	—	②,⑩	○	②,⑩	なし	●					ア	両肺尖胸膜肥 厚、右S4粒状	
82	男	1930代	—	⑧,⑨	○	⑧,⑨	なし	●					ア		
83	男	1930代	—	②	○	②	なし	●					ア		
84	男	1960代	—	⑩	○	⑩	—	●					ア	右S1+2巨大ブ ラ、右S8・3mm 結節	
85	男	1950代	—	②	○	②	—	●					ア		
86	男	1940代	—	⑩	○	⑩	—	●					ア	胸膜肥厚、胸 膜石灰化、ブラ	
87	男	1930代	—	⑥	○	⑥	なし	●					ア		
88	男	1930代	なし	不変	—	なし	なし	●	●				ア		
89	男	1940代	②,⑨	不変	—	②,⑨	なし	●	●				ア		
90	男	1930代	⑩	新所見	—	⑩	なし	●	●				ア	右中肺野結 節、右下野内 側肺紋理増強	
91	男	1940代	②,⑩	不変	—	②,⑩	なし	●	●				ア	心臓ブランク	
92	男	1940代	②,⑤, ⑨,⑩	不変	—	②,⑤, ⑨,⑩	なし	●	●				ア	気管支拡張、気 腫性変化	
93	男	1940代	②,⑤, ⑥,⑩	増悪	—	②,⑤, ⑥,⑩	なし	●	●				ア	斑状影	
94	男	1930代	—	②,⑩	○	②,⑩	—	●	●				ア	右腎のう胞	
95	男	1940代	—	⑨	○	⑨	—	●	●				ア		
96	男	1930代	—	⑩	○	⑩	なし	●	●				ア	左右下葉結節 3mm超	
97	男	1960代	—	⑩	○	⑩	—	●	●	●	●		ア	左横隔膜網状 影、両肺尖胸 膜肥厚	
98	女	1960代	—	⑩	○	⑩	なし	●	●		●	●	ア	右胸膜下葉状	
99	男	1930代	⑩	不変	—	⑩	なし	●	●			●	ア	気管支拡張	
100	男	1930代	②	不変	—	②	なし	●		●			ア		
101	男	1940代	②,⑨	不変	—	②,⑨	なし	●		●			ア		
102	女	1930代	なし	不変	—	なし	なし	●		●			ア		
103	女	1950代	なし	不変	—	なし	なし	●		●			ア		
104	女	1940代	②,⑤, ⑥,⑨	不変	—	②,⑤, ⑥,⑨	c	●		●			ア		

症例 番号	性別	生年(西 暦)	2006年 度所見	2007年 度X線所 見	2007年 度CT	最新の 所見	疾患名	A,直接 陽性あり	I,間接 陽性あり	ウ,家庭 内ばく露 あり	エ,立入 屋内環 境ばく露 あり	オ,その 他	ばく露歴 分類案	備考(その他所見)	備考(終了理 由)
105	女	1940代	②,⑤, ⑧,⑩	不変	○	②,⑤, ⑧,⑩	なし	●		●			ア	両肺野胸壁下 小結節散在	
106	男	1940代	②,⑨	不変	—	②,⑨	なし	●		●			ア		
107	女	1940代	なし	不変	—	なし	なし	●		●			ア		
108	女	1930代	②,⑥, ⑩	不変	—	②,⑥, ⑩	なし	●		●			ア	気管支拡張,ブ ラ	
109	男	1920代	②,⑥, ⑩	不変	—	②,⑥, ⑩	c	●		●			ア	気管支拡張	
110	女	1930代	②,⑤, ⑥	不変	—	②,⑤, ⑥	なし	●		●			ア		
111	女	1930代	②,⑨, ⑩	不変	—	②,⑨, ⑩	なし	●		●			ア	気腫性変化	
112	女	1930代	②,⑨	不変	—	②,⑨	なし	●		●			ア		
113	男	1930代	②,⑨	不変	—	②,⑨	なし	●		●			ア		
114	女	1940代	②	不変	—	②	なし	●		●			ア		
115	女	1930代	②,⑩	不変	—	②,⑩	なし	●		●			ア	気腫性変化	
116	男	1930代	②,⑨	不変	—	②,⑨	なし	●		●			ア		
117	女	1940代	なし	不変	—	なし	なし	●		●			ア		
118	女	1930代	②,⑩	不変	—	②,⑩	なし	●		●			ア	気腫性変化	
119	女	1950代	②,⑩	不変	—	②,⑩	なし	●		●			ア	前回のCTより 経過観察必 要、粒状影	
120	男	1940代	②,③, ⑤,⑥	不変	—	②,③, ⑤,⑥	e	●		●			ア		
121	女	1940代	②,⑩	増悪	—	②,⑩	なし	●		●			ア	斑状影	
122	男	1950代	—	②	○	②	なし	●		●			ア		
123	男	1940代	—	なし	○	なし	—	●		●			ア		
124	女	1950代	②,⑧, ⑩	不変	○	②,⑧, ⑩	なし	●		●	●		ア	気管支拡張、ブ ラ	
125	女	1940代	なし	不変	—	なし	なし	●		●	●		ア		
126	男	1940代	②	不変	—	②	なし	●		●	●	●	ア		
127	男	1920代	②,⑩	新所見	—	②,⑧, ⑩	なし	●		●	●	●	ア	気腫性変化	
128	女	1920代	②,⑩	不変	—	②,⑩	なし	●		●		●	ア	左中肺野小結 節、気管支拡	
129	女	1930代	—	⑤,⑥	○	⑤,⑥	なし	●		●		●	ア		
130	女	1940代	なし	不変	—	なし	なし	●		●		●	ア		
131	男	1930代	②,⑦, ⑩	不変	—	②,⑦, ⑩	なし	●		●		●	ア	左横隔膜角鈍 化	
132	女	1940代	⑧	不変	○	⑧	なし	●		●		●	ア		
133	女	1940代	②,⑤, ⑥,⑧	不変	—	②,⑤, ⑥,⑧	なし	●		●		●	ア		
134	男	1930代	②,⑨, ⑩	不変	—	②,⑨, ⑩	なし	●		●		●	ア	肋骨横隔膜角 鈍化	
135	女	1930代	②	不変	—	②	なし	●		●		●	ア		
136	男	1930代	⑤,⑥, ⑨,⑩	不変	—	⑤,⑥, ⑨,⑩	なし	●		●		●	ア	心肥大	
137	男	1930代	⑩	不変	—	⑩	なし	●		●		●	ア	肺気腫	
138	男	1930代	②,⑤, ⑨,⑩	不変	—	②,⑤, ⑨,⑩	なし	●		●		●	ア	気腫性変化	
139	男	1910代	②,③, ⑥,⑨	不変	—	②,③, ⑥,⑨	e	●		●		●	ア		
140	女	1930代	—	②,⑩	○	②,⑩	なし	●		●		●	ア	肋骨横隔膜角 鈍化	
141	男	1940代	—	なし	○	なし	なし	●		●		●	ア		
142	女	1940代	—	なし	○	なし	なし	●		●		●	ア		
143	男	1940代	②	不変	—	②	なし	●			●		ア		
144	男	1930代	②,⑥, ⑩	不変	—	②,⑥, ⑩	なし	●			●		ア	ブラ	
145	男	1960代	—	⑩	○	⑩	—	●			●		ア	右S1小結節影 3mm	
146	男	1940代	—	なし	○	なし	—	●			●		ア		
147	男	1940代	⑩	不変	—	⑩	なし	●			●	●	ア	気管支拡張	
148	男	1940代	—	②	○	②	なし	●			●	●	ア		
149	男	1960代	—	⑩	○	⑩	—	●			●	●	ア	両肺尖硬化巣 炎症後変化	
150	男	1940代	—	⑩	○	⑩	—	●			●	●	ア		
151	男	1940代	—	⑩	○	⑩	—	●			●	●	ア	左S1+2結節影	
152	男	1960代	—	⑩	○	⑩	—	●			●	●	ア	肺尖部胸膜肥	

症例 番号	性別	生年(西 暦)	2006年 度所見	2007年 度X線所 見	2007年 度CT	最新の 所見	疾患名	A,直接 腫瘍あり	I,間接 腫瘍あり	ウ,家庭 内ばく露 あり	エ,立入・ 屋内環境 ばく露 あり	オ,その 他	ばく露歴 分類案	備考(その他所見)	備考(終了理 由)
153	男	1960代	—	なし	○	なし	なし	●				●	ア		
154	女	1940代	②,⑤, ⑥,⑨, ⑩	不変	—	②,⑤, ⑥,⑨, ⑩	なし	●				●	ア	炎症後変化	
155	女	1930代	②	不変	—	②	なし	●				●	ア		
156	男	1940代	なし	不変	—	なし	なし	●				●	ア		
157	男	1940代	⑧,⑨, ⑩	増悪	○	⑧,⑨, ⑩	b	●				●	ア	肺気腫	
158	男	1930代	②,⑨, ⑩	不変	—	②,⑨, ⑩	なし	●				●	ア	プラ	
159	女	1940代	なし	不変	—	なし	なし	●				●	ア		
160	男	1950代	⑩	不変	—	⑩	なし	●				●	ア	気腫性変化,気 管支拡張	
161	男	1930代	②,⑩	不変	—	②,⑩	f	●				●	ア	肺気腫	
162	女	1930代	②,⑨	不変	—	②,⑨	なし	●				●	ア		
163	男	1940代	⑩	増悪	—	⑩	なし	●				●	ア	左中肺野斑状	
164	男	1940代	②,⑨, ⑩	増悪	—	②,⑨, ⑩	なし	●				●	ア	結節影増大, 気腫性変化	
165	男	1950代	なし	不変	—	なし	なし	●				●	ア		
166	男	1940代	②,⑤, ⑥	不変	—	②,⑤, ⑥	なし	●				●	ア		
167	女	1950代	—	なし	○	なし	なし	●				●	ア		
168	女	1930代	—	なし	○	なし	—	●				●	ア		
169	男	1940代	—	なし	○	なし	なし	●				●	ア		
170	男	1940代	—	⑩	○	⑩	—	●				●	ア	左S8小結節	
171	男	1950代	—	⑩	○	⑩	—	●				●	ア	両肺尖胸膜肥	
172	男	1950代	—	⑥,⑩	○	⑥,⑩	—	●				●	ア	肺気腫	
173	男	1940代	—	⑩	○	⑩	—	●				●	ア	胸膜肥厚	
174	男	1930代	—	②,⑩	○	②,⑩	—	●				●	ア	肺気腫	
175	男	1940代	—	⑩	○	⑩	なし	●				●	ア	右S8, 左S8結 節影	
176	男	1940代	—	②	○	②	なし	●				●	ア		
177	男	1950代	⑩	不変	—	⑩	なし	●					イ	肺気腫	
178	男	1960代	なし	新所見	—	⑩	なし	●					イ	左上肺野結節	
179	男	1930代	なし	不変	—	なし	なし	●					イ		
180	男	1930代	②,③, ⑥,⑨	不変	—	②,③, ⑥,⑨	。	●					イ		
181	男	1940代	なし	不変	—	なし	なし	●					イ		
182	男	1950代	⑩	不変	—	⑩	なし	●					イ	気腫性変化,気 管支拡張	
183	男	1940代	なし	不変	—	なし	なし	●					イ		
184	男	1940代	なし	不変	—	なし	なし	●					イ		
185	女	1920代	⑨	不変	—	⑨	なし	●					イ		
186	男	1950代	なし	不変	—	なし	なし	●					イ		
187	男	1930代	なし	不変	—	なし	なし	●					イ		
188	男	1950代	②,⑨	不変	—	②,⑨	なし	●					イ		
189	女	1960代	⑩	不変	—	⑩	なし	●					イ	気管支拡張	
190	男	1960代	なし	不変	—	なし	なし	●					イ		
191	男	1950代	—	なし	○	なし	なし	●					イ		
192	男	1930代	—	②,⑤	○	②,⑤	なし	●					イ		
193	女	1930代	—	なし	○	なし	なし	●					イ		
194	男	1960代	—	②,⑩	○	②,⑩	なし	●					イ	右葉間胸膜限 局性肥厚、右 上葉境界不鮮 明GGO	
195	男	1960代	—	⑩	○	⑩	—	●					イ	右S4粒状影	
196	男	1940代	—	⑩	○	⑩	—	●					イ	左葉間結節	
197	男	1960代	—	なし	○	なし	—	●					イ		
198	男	1940代	—	⑩	○	⑩	なし	●					イ	右S9結節4mm	
199	女	1960代	②,⑨	不変	—	②,⑨	なし	●	●				イ		
200	女	1960代	なし	不変	—	なし	なし	●	●			●	イ		
201	女	1940代	—	⑩	○	⑩	—	●	●			●	イ	右下葉炎症後 変化	
202	男	1950代	なし	不変	—	なし	なし	●			●		イ		
203	男	1960代	—	⑩	○	⑩	—	●			●		イ	右肺尖胸膜肥	
204	男	1920代	—	⑩	○	⑩	—	●			●		イ	右S4GGO	
205	男	1960代	—	⑨,⑩	○	⑨,⑩	なし	●			●	●	イ	左S5索状影	